

おおくぼ はつでんしょ
大久保発電所

天竜川本川最初の発電所

下流に計画された南向発電所の工事用電源を確保するために、1926(大正15※)年11月から1927(昭和2)年9月にかけて、天竜川電力(株)がわずか10か月で建設した。天竜川本川にできた最初の発電所。高い落差を利用した発電所と異なり、落差が5.7mと低い全国でも珍しい発電所。多量の水の水压を利用したダム式で、4台の水車が回転し発電する。大久保ダムは堰堤高約3.5m、長さ約26m。発電所はダムの約376m下流にある。南向発電所建設以後は、発電した1,500kwの電気を上伊那地区の家庭と工場に送っている。

※大正15年は1926年12月25日まで
昭和元年は、12月25日～31日の7日間のみ



大久保発電所(水車を回転させ発電に利用された流水は、天竜川に放水される。管理は中部電力(株)
(注:川の中および発電施設は危険ですので、近づかないようにしてください)



大久保ダム

大久保水路一般平面図



大久保発電所付近図(駒ヶ根市誌より)

information

□ アクセス

駒ヶ根ICから10km
車→20分

□ 所在地

駒ヶ根市東伊那



ももすけ
福沢桃介

みなかた
**南向
発電所**

天竜川水系の電源開発(大久保発電所・南向発電所・泰阜ダムなど)を企画し、具現化した人。日本の電力王と言われる。九州・四国の電気軌道と水力発電などを手始めに、愛知・関西にも手を広げ、要職にあった会社は数十社に及んだ。

天竜川の開発は地元住民の反対で、南向発電所以降は困難となった。駒ヶ根市吉瀬より取水。1927(昭和2)年7月に着工、1929(昭和4)年2月発電開始。翌年には、大同電力(株)を通じて、東京変電所まで送電された。これが伊那谷に最初に建設された特別高圧送電線であった。



(国土地理院の数値地図50000(地図画像)を使用)